

# ちどり

vol.51

OCTOBER 2022



特集1

## 脳神経外科／手術用顕微鏡 Carl Zeiss KINEVO 900 の導入について



病院機能評価講評及び意見交換

### Contents

- 病院機能評価受審を終えて
- 就任のご挨拶
- チーム医療：心不全緩和ケアチーム
- 院内 BLS 研修について
- 看護師特定行為研修 2 年目を迎えて
- 総合支援センタートピックス
- おすすめスポット
- 逆紹介の推進について



#### 病院の基本理念

「患者よし、職員よし、病院よし」

#### 病院の運営方針

- ・ 病む人の人権を尊重し良心的な質の高い医療を提供します
- ・ 安全で心温まる医療を提供します
- ・ 臨床研究を推進し医学・医療の進歩に貢献します
- ・ 教育研修を通して人材育成に努めます
- ・ 新しい医療情報を発信し地域医療の発展に貢献します
- ・ 職員が一体となり健全な病院経営に努めます



ケアプロセス

# 病院機能評価受審を終えて

副院長 岡林 寛

**福** 岡東医療センターが長い間取りそびれていた資格である“病院機能評価”の受審の日がついに超大型台風の余波が残る令和4年9月20日、21日に訪れました。

**思** い返せば、昨年5月26日の管理診療会議の際に中根院長が高らかにキックオフ宣言し、6月14日の第1回のプロジェクト全体会議を皮切りに職員全員で地道に積み上げてきた病院のbrush-up大作戦です。世間に認められるまっとうな病院への1年半かけた脱皮といった感じです。ただ、最後の最後に横やりを入れてきたのはコロナ第7波でした。院内感染やクラスター次第では受審延期で、来年の6月以降への否応なしのワープという危機的状況を突き付けられ、プロジェクト責任者としての最後の偉大な仕事は毎朝の神頼みでした。お陰様で受審できました

事を有難くご報告させていただきます。二礼二拍手一礼。サーベイヤーの先生方も台風による交通機関の麻痺を考慮して1日早く福岡入りして下さいましたことも感謝感激です。

**合** 否はまだ判明していませんが、人事を尽くした達成感は十分あります。以下に各領域の責任者より受審を終えた感想を報告していただくこととしました。可否を問わず（神様、わすれていましたが“うけられる”の次は“わかる”をお願いします。）積み上げてきたそれぞれのPDCAのローリングを今後にも続けていく材料にさせていただければ、今回の受審が間違いなく今後の病院運営に活かせるものと信じています。

**評** 価に値する病院を皆で維持していきましょう。



**【第1領域】**患者中心の  
医療の推進責任者：大越消化器内科部長  
香崎医療安全管理係長  
今村企画課長

第一領域は「患者中心の医療推進」とのことで、主に院内の規定、マニュアルの新規作成、改訂、また療養環境の整備を行いました。多職種にわたってルール作りに参加していただき、かなりいいものできたと思っています。今回の受審の良かった点の一つは、多職種の協力による医療が如何に重要かつ有効であるかを再認識させられたことです。また今回の活動は、これまで各職員がそれぞれの考え、経験でそれなりに行っていたものを、標準化する作業でもあったと考えています。今後はさらに足りないものを洗い出し、じっくりゆっくり急がず整備していくこと、また今回新たに作成したルールの浸透を図り、必要に応じて改定していくことが重要になってくると思っています。協力していただいた方々ありがとうございました。今後も一緒に活動を続けていきましょう。

**【第2領域】**良質な医療の  
実践 1責任者：黒田脳神経内科部長  
土井地域医療連携係長  
井上経営企画室長

第二領域は黒田（脳神経内科部長）、土井（地域連携室係長）、瀬上（前経営企画室室長）、井上（経営企画室室長）がコアメンバーとして取り組みました。問題点の洗い出しを行い、改善に繋げていく作業は大変勉強になりました。多くの職員や患者さんの協力を得て、何とか成し得たと思っています。病院機能評価への準備の過程で、当院の職員はもともと患者さんのことを真剣に考えていることをひしひと感じましたが、環境やチェック機構を整えることで、間違いなくより安心・安全な病院に生まれ変わったと思います。大事なのは、ここで終わりにすることなく、今後も職員一丸となってこの歩みを進めていくことです。患者さんを中心に据えた当院の役割を引き続き果たしていくように努力する所存です。責任の重さと不安をずっと抱えていましたが、いろいろな人から助けら



面接調査

れました。かけがえのない経験をさせていただきありがとうございました。

**【第3領域】**良質な医療の  
実践 2責任者：内山外科部長  
江川看護師長  
松尾業務班長

私、内山、江川救命センター師長、松尾業務班長の3人が領域担当者としてチームを組みませてもらいました。第3領域は14の評価項目があり、担当部署がそれぞれ分かれていたため、問題点を抽出するには部署別にミーティングをするのが効果的と考え、計27回の項目別ミーティングを行い、問題点の改善に努めました。この受審をきっかけに病院機能がかなり改善したと感じております。貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。



部署訪問

**【第4領域】**理念達成に向けた  
組織運営責任者：高田統括診療部長  
末次事務部長  
梶谷教育担当看護師長

当初は何をどう進めてよいか皆目わからぬ状態で各担当者に頼って進めて参りました。受審が終わってようやくその意味合いがわかってきた感があります。評価結果もさることながらおそらく各指摘事項のうち当院において何を重視してゆくかを考え咀嚼していく過程がさらに必要とされるのではないかと感じております。また将来の評価更新を考えたときに今回の経験をどのように新たなスタッフへ伝えてゆくかも考えていかねばと思います。

**【重心・副機能領域】**責任者：李小児科部長  
佐藤看護師長  
岩永主任児童指導員  
下高原専門職

いずみ東病棟師長を中心に多職種で取り組みました。50年以上の歴史のある当重心病棟でこれまで行ってきた思いやりの医療と連携を明確な形に言語化、マニュアル化していくことが求められていると感じました。その中で「こどもの権利」「障害のある方の権利」が制定されたことは大きな実りになりました。合否は関係なく、多職種の連携を再確認でき今後の更なる診療の質の向上につながる良い経験となりました。

手術用顕微鏡 Carl Zeiss KINEVO  
900の導入について

脳神経外科部長 保田 宗紀



2022年3月14日に最新型手術顕微鏡 Carl Zeiss KINEVO 900が納入されました。新たに導入されたKINEVOは手術顕微鏡として世界最高峰の性能を有していますが、これまでの顕微鏡とは一線を画する画期的な顕微鏡です。その最大の特長は「外視鏡」としても使用できることです。脳組織や血管の微細な構造を、接眼レンズからのぞくことなく4K 55インチのモニターで3Dゴーグルをかけて立体視ができます。55型の大型3Dモニターで術者だけでなく、全員が手術野を3Dで観察可能ですので、手術教育として大変有用であると言われています。外視鏡専用機としては他社にもありますが、顕微鏡と併用できる機種は現在、世界でこのKINEVOだけです。

また、それ以外にも今までにはない種々の革新的なロボット機能を搭載しています。例えば、顕微鏡の振動を最小限に抑える機能により、片手のみの操作で簡単

に顕微鏡を操作できたり、焦点を合わせた術野を中心に回旋する機能だったり、ボタン操作一つで予め保存した術野と同じ倍率、同じ距離、同じアングルに瞬時に戻ることができる機能などです。

更にニューロナビゲーション、神経内視鏡とも連動が可能で、顕微鏡の術野画面にこれらの機能を同時に搭載して観察することが可能となっています。また、ICG術中蛍光撮影機能も搭載しており、バ

イパス手術における脳血管の開通の確認や、脳動脈瘤手術で確実にクリッピングができているのか、を確認できるようになりました。これらの機能を上手に活用することで、より安全により確実に脳血管外科手術を行うことができるようになっていきます。

加えて、術中の腫瘍観察モジュールである、BLUE 400とYELLOW 560を搭載しています。これは、特殊な薬剤を術前に投与することで、術中に腫瘍組織が造影されます。顕微鏡で観察すると、蛍光造影されますので、かなり正確に腫瘍組織が摘出可能になります。これらの機能により、脳腫瘍についてもより安全でより精度の高い手術を提供することができるようになりました。

これまでの脳血管外科・血管内手術をメインとした脳卒中センターに加え、脳腫瘍においても、これまで以上に地域に貢献できる条件を整いつつ、更なる発展を目指します。



# 就任のごあいさつ

今回、新たに  
福岡東医療センターへ配属された  
先生方をご紹介します

氏名 **古川 陽介**

職名 循環器科医師

所属学会 日本循環器学会  
日本心血管インターベンション治療学会  
Japan Endovascular  
Treatment Conference (JET)



古川と書いて「こかわ」と読みます。少しでも早く、この地域の力になれるよう頑張りますので宜しくお願いします。

氏名 **谷口 大介**

職名 外科医師

所属学会 日本外科学会  
日本消化器外科学会  
日本癌治療学会  
日本食道学会、日本胃癌学会



一般外科、消化管外科を担当しています。術後合併症を起こさないような手術を行うよう精進しています。

氏名 **富山 貴央**

職名 外科医師

所属学会 日本外科学会、日本消化器外科学会  
日本肝胆脾外科学会、日本移植学会  
日本肝移植外科学会、日本癌治療学会



2022年9月より赴任いたしました富山貴央と申します。地域の皆様に安心していただける医療を提供できますよう尽力いたします。

氏名 **佛坂 早紀**

職名 腎臓内科医師

所属学会 日本内科学会  
日本腎臓学会  
日本透析医学会

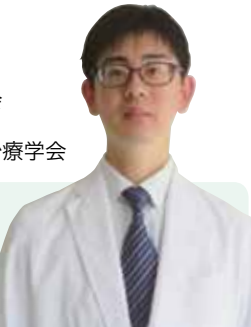


9月より赴任して参りました。腎臓内科の佛坂早紀と申します。腎臓一般および透析の分野を専門としています。どうぞよろしくお願ひ致します。

氏名 **高木 友博**

職名 脳神経外科医師

所属学会 日本脳神経外科学会  
日本脳卒中学会  
日本脳神経血管内治療学会



10月より赴任してまいりました脳神経外科の高木友博です。地域の方の役にたてるように頑張りますので、よろしくお願ひ致します。

氏名 **杉田 敏明**

職名 整形外科医師

所属学会 日本整形外科学会  
西日本整形・災害外科学会



10月より当院に赴任して参りました整形外科の杉田敏明と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

氏名 **畠中 麻衣**

職名 麻酔科医師

所属学会 日本麻酔科学会  
日本ペインクリニック学会



10月より当院に赴任して参りました、麻酔科の畠中です。心身共に負担を減らすことができるよう、心がけていきたいです。よろしくお願ひ致します。

氏名 **木下 直人**

職名 麻酔科医師

所属学会 日本麻酔科学会



10月より赴任しました麻酔科の木下です。半年間、よろしくお願ひします。

氏名 **松尾 将人**

職名 感染症内科専攻医

所属学会 日本内科学会  
日本感染症学会  
日本糖尿病学会



感染症内科の松尾です。よろしくお願ひします。

氏名 **田北美香子**

職名 婦人科専攻医

所属学会 日本産婦人科学会



10月より当院に赴任してまいりました婦人科の田北と申します。どうぞよろしくお願ひ致します。



緩和ケアは世界保健機関(WHO)により「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確な評価と処置を行うことによって、苦痛の予防と緩和を行うことで生活の質を改善するアプローチ」と定義されています。これまで緩和ケアは、がんの領域で発展し一般的に緩和ケアというとがんの終末期が想定されることが多いですが、近年がん以外の領域での緩和ケアの必要性が注目されています。

当院においても昨年度心不全緩和ケアチームを結成し、患者介入を開始しています。循環器内科医師、心療内科医医師、慢性心不全看護認定看護師、病棟看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、管理栄養士などの多職種で患者の望む生活を送るために何ができるかを話し合い実践しています。

心不全の増悪で1~2カ月毎に入退院を繰り返している患者さんに、心不全緩和ケアチームで介入しました。倦怠感が強く、軽労作でも呼吸困難を来し、不眠が続き易怒性が強くなり

自宅への退院は困難な状況でした。しかし、「自分のことは自分でしたい。」という患者の思いを尊重し、自宅退院を実現するための介入をおこないました。心不全緩和ケアチームで患者ラウンドをおこない、不眠に対しては心療内科医師と薬剤師が相談し内服薬の調整をしました。心臓の負担を軽減するための動作や休息については、循環器内科医師や理学療法士が患者の心機能を評価しながら、生活指導を実施しました。家族、ケアマネージャーとも連携を図り自宅退院に向けた具体的な援助について話し合い、退院前カンファレンスを実施後、自宅退院することができました。

心不全は増悪と寛解を繰り返しながら病状が進行していくため、終末期の判断が難しい疾患です。患者さんが、人生の最終段階にどのような治療やケアを望むかを家族で話し合っておくことが重要です。心不全緩和ケアチームでは身体的な苦痛を薬で取り除くだけではなく、不安や気がかりなことについて一緒に考え、食事や運動の方法を提案するなどの、生活指導を行っています。いつでもお気軽にご相談ください。

# 院内 BLS 研修について

医療安全管理室副看護師長 富永 志緒里



福岡東医療センターでは、あらゆる状況下でも発生しうる心停止の患者に対して、“いつでも、どこでも、だれでも”直ちにBLSを実施できるように、今年度より委託職員を含む全職員を対象にしたBLS研修を開催しています。

BLSとは、Basic Life Supportの略称で、心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置のことです。心肺蘇生や自動体外式除細動器(AED)を用いた対応がこれにあたります。BLSは、AED以外の特別な器具がなくても、正しい知識と適切な処置の方法さえ知っていれば誰でも行うことができます。救命に最も大切なのは、素早く心臓マッサージを開始し、なおかつ質の高い圧迫をできるだけ中断することなく行うことです。院内および院外での突然の心停止の患者に対して直ちに有効なBLSを行う事は、患者の蘇生・社会復帰に大きく貢献することに繋がります。

福岡東医療センターには、BLSインストラクターの資格をもつ医師・看護師がいます。本研修では、インストラクターの指導のもと、心肺蘇生法(胸骨圧迫)とAEDの使用方法について小グループを編成し演習を行っております。シミュレーターを用いて参加者全員が胸骨圧迫を実践し、ひとり

ひとりにインストラクターがアドバイスをおこない、有効な胸骨圧迫を実施できることを目指しています。7月に開催いたしました研修参加者は、業種、年齢、経験も様々でありましたが、参加者同士が声をかけあいながら取り組んでいました。参加者の中には、積極的に質問をしたり、メモをとりながら話を聞いたりなど、意欲的に参加する姿がみられました。研修時間は短時間ではありますが、研修終了時間ぎりぎりまで繰り返し演習を行い有意義な研修時間となりました。当院には多くの委託職員がいますので、職員・委託職員の垣根を越えて一緒に学ぶ研修が、医療現場で働く職員の一員であるという自覚につながり、病院全体で救命に取り組むことができると考えています。また、コミュニケーションを取りやすい環境作りになり、病院・療養環境の安全につながると考えています。

病院内には、医療者が多くいますが、医療者の前で倒れるとは限りません。心停止した患者を発見次第、誰でも迅速な対応ができるように訓練しておくことは重要です。新型コロナウイルス感染症流行に伴い開催できていない時期もありますが、病院職員が直ちに有効なBLSを実施できるように研修を継続して開催していきます。



# 看護師特定行為研修 2年目を迎えて



4名の特定行為研修修了生

福岡東医療センター看護師特定行為研修は、今年2年目を迎えました。昨年12月に1期生3名の特定行為研修修了生が誕生し、熊本医療センターでの修了生と合わせて、4名となりました。現在、フォローアップ研修を受けながら実践に臨んでいます。

今年は、2期生4名(院内2名、院外2名)の研修生が6月1日に入講されました。前半は、e-ラーニングと演習等による共通科目の授業です。e-ラーニングで学んだ知識を活かし、演習ではペーパーシミュレーションによる事例の検討やロールプレイ、そしてシミュレーターを利用したフィジカルアセスメントの練習など行っています。今年初めて院外からの研修生も参加され、経験年数の違いから教えて頂くことも多く、とても刺激となっています。また、お互いの施設の情報交換なども活発で、学びが深まっているのを感じます。8月下旬から区分別科目に入り、OSCE(実技試験)を経て9月下旬より12月にかけて実習に出ます。医師の指導の下、手順書を確認しながら5症例以上の事例を経験していきます。この研修は、特定行為という技術的側面だけでなく、共通科目で臨床推論やフィジカルアセスメント、疾病・病態概論など医師の診断における思考過程などを学びます。また、医療安全学/特定行為実践の科目では、裁判判例

看護師特定行為研修担当 児玉 由美子

やチーム医療、意思決定支援、倫理、リフレクションなどを学びました。この過程の中で、研修生は、生活や精神面に偏りがちな看護師の視点から疾患を論理的にきちんと捉えることの重要性を痛感しています。また、常に自分自身を振り返ることの大切さを感じ、専門性のある質の高いケアをするために、特定行為看護師が特定行為を実践することはどういう意義があるかなどを考える時間となっています。

特定行為研修が修了すると、救急パッケージ研修においては、経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整、侵襲的陽圧換気の設定の変更、非侵襲的陽圧換気の設定の変更、人工呼吸器管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整、人工呼吸器からの離脱、直接動脈穿刺法による採血、橈骨動脈ラインの確保、脱水症状に対する輸液による補正、抗けいれん剤の臨時的投与ができるようになります。また、胸腔ドレーン管理関連では、低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更、胸腔ドレーンの抜去ができるようになります。

しかし、特定行為についての活動や認知度はまだ十分でなく、整えていかないといけない体制などの課題や人数の面でも増やしていく必要があります。まずは、特定行為研修の修了生が、高度な臨床実践能力を発揮し、専門性を発揮したチーム医療のキーパーソンとして活躍できるように、組織として支援する体制を整えていきたいと思えます。

皆様のご支援を受けながらサポートしていきたいと思えますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



福岡東医療センター特定行為研修第2期生



演習の様子



フィジカルアセスメント体験



# 総合支援センタートピックス

がん相談支援センター  
看護師 眞部 香奈恵



当院は地域がん診療連携拠点病院であり、がん相談支援センターが設置されています。在宅医療・緩和ケア・仕事との両立・セカンドオピニオンに関することなど様々な相談を受けています。1人で悩まず、気軽にどんなことでもご相談ください。

がん相談支援センター長の濱武です。患者さまに寄り添い、スタッフとともにしっかり力添えをして参ります！

## 〈がん相談支援センター看護師の1日を紹介します〉

### 8:30 始業

- 患者様の情報収集
- 1日のスケジュールの確認、他院からの受診予定の確認

※いろいろな電話が、院外からも院内からかかってきます。

### 9:00 ~ 外来対応

- 外来患者さんの診察の同席
- がん地域連携パスの説明

### 患者さんと面談

- 患者さん・ご家族との面談を行い、療養先や自宅での生活の希望等をお聴きし、相談をおこなっていきます。



### 13:30 ~ 終業

- 入院中のがん患者さんのお話をうかがったり、医師からの説明に同席することもあります。
- 退院の前には院外の多職種と話し合い(カンファレンス)や調整を行っています。

がん地域連携クリティカルパスとは「私のカルテ」を活用し、福岡東医療センターとかかりつけ医が協力して患者さんをサポートするシステムです。

- 外来の看護師や医師、院外の在宅医療関係者と患者さんの情報共有をタイムリーに行っています。

### 13:00 総合支援センターカンファレンス

- 患者さんの調整の検討や情報交換を行います。
- 地域の様々な情報の交換



### こんな研修を受けています！

国立がん研究センターによる「がん相談支援センター相談員基礎研修」(1)~(3)を終了した、看護師や医療ソーシャルワーカーが相談員として、配置されてます。患者さん、ご家族の気持ちを尊重した関わりに努めています。

### がん相談支援センターを知って頂くために、様々な院外活動を行っています！

- 小中学校でのがん教育
- 古賀市図書館での講演会
- 古賀市健康福祉祭りへの参加
- リレーフォーライフジャパン福岡への参加



当院の

# おすすめスポット



## 福岡東リハビリテーション科 外来棟 2階リハビリ室

作業療法士 田中 那実



### サテライトリハビリ室



2  
病棟



3  
病棟



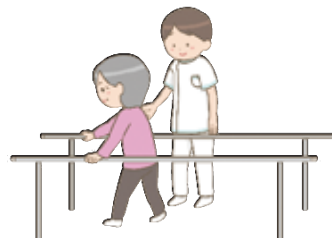
4  
病棟



5  
病棟

当院のリハビリテーション科は、他部門との緊密な連携をとりつつ早期に効率の良いリハビリテーションを行い、身体機能を改善し、地域・社会への早期復帰を目指しています。

リハビリテーションセンターは、外来棟2階に設置されており広々とした解放感あふれるフロアとなっています。また、患者様へタイムリーにリハビリの時間を提供できるよう、各病棟には「サテライトリハビリ室」が設置されています。



【1】運動を行う際の留意点！  
 ・動きに慣れてから、運動量を増やしていく  
 ・痛みが出たら、動きを止めて休息。痛みが軽減するまで

**筋力強化運動**

スクワット

- ・両足の踵を一直線に、1・2・3・4と数えながら約30回繰り返す。
- ・そのまま静止時、ゆっくり呼吸を繰り返す。

膝が伸びる姿勢：太ももの前側、お尻の筋肉

足のうしろあげ

- ・一方の足を1・2・3・4と数えながら後ろにゆっくりあげる。
- ・数回連続であげたら、そのまま静止時、ゆっくり呼吸を繰り返す。

膝が伸びる姿勢：太ももの後ろ側の筋肉

新型コロナウイルスによる運動不足改善に向けて作成した、「家 DE リハビリ 福岡東いきいきプログラム」も設置しています。

見学をご希望の際はリハビリ科までご連絡下さい。



# 福岡東医療センターは 身近な**かかりつけ医**への **逆紹介**を推進しています。

～安心できる地域医療連携～

かぜなどの  
初期診療や  
症状の安定した  
患者さんを主に担当



## かかりつけ医

● 高度な検査や入院治療が必要になった場合は、「福岡東医療センター」の「紹介状」を書いて頂き、ご来院下さい。

## 紹介



高度な検査や  
入院治療、  
救急医療を  
主に担当

# 連携 協力



## 福岡東 医療センター

● 病状が落ち着いた患者さんは再び「かかりつけ医」にご紹介いたします。

## 逆紹介

福岡東医療センターは「地域医療支援病院」として「かかりつけ医」と連携・協力して皆様の健康を守っています。

※「かかりつけ医」がない方、通いやすい医療機関での診断を希望される方には、当院の地域医療連携室がご相談に応じます。

## 編集 後記

試合が終わるまで結果がわからない競技が大抵であるが、試合が始まる時点で結果が大方決まっている競技もまたある。その際は試合そのものよりもむしろ準備の過程がより重要となる。多くの選手らは楽しみながら準備することを説いている▼この度は無事に病院機能評価受審が終了した。一年以上の準備期間では緊張も緩む時期もありうる中で継続するのは大変であったとお察しする。関係した職員の方々はもとより、とくに準備に奔走された方々には頭の下がる思いである▼準備も競技と同様、楽しさも見出さなければ続くものではないだろう。楽しみの見だし方を含めチーム力が問われていたのは言うまでもない▼広報委員会ではこの機会に無事ホームページを全面改定することが出来た。微力ながらもチーム力の一助になれたのであれば幸いである。

(黒木記)

外来担当医一覧 令和4年10月1日現在 ※最新の担当医はホームページをご覧ください。https://fukuokae.hosp.go.jp/

受付時間

1) 午前8時30分から午前11時00分まで。 ※予約の方は、指定された時間において下さい。  
 2) 土・日・祝祭日・年末年始は休診です。当院は救急告示病院です。救急の方は、診療時間外でも受付いたします。

診療科	月	火	水	木	金		
内科新患(別紙参照)	当番医	当番医	当番医	当番医	当番医		
脳神経内科	新患	田中 恵理	松岡 幹晃	芝原 友也	田中 恵理	黒田 淳哉	
	再来(脳血管内科)	松岡 幹晃	中根 博・尾崎雄一	黒田 淳哉	芝原 友也	立花 正輝	
	再来(神経内科)	-	田中 恵理	田中 恵理	九大医師	-	
糖尿病	新患	野原 栄	-	坂本 知子	担当医	堤 礼子	
	再来	堤 礼子・坂本知子	-	野原 栄・堤 礼子	坂本 知子	野原 栄	
血液内科	新患	-	担当医	担当医	-	担当医	
	再来	亀崎 健次郎	亀崎 健次郎	黒岩 三佳	-	黒岩三佳・坂本佳治	
消化器科(消化管・肝臓)	肝	高尾 信一郎	多田 靖哉	鈴木 秀生	多田靖哉・高尾信一郎	-	
	膵胆	藤山 隆	大越 恵一郎	松尾 享	松尾 享	大越 恵一郎	
	消化管	藤井 宏行	中村和彦・坂井慈実	荒殿 ちほ子	田中 宗浩	安部 周吉	
腎臓内科	新患	荒瀬 北斗	黒木 裕介	黒木 裕介	木村 駿太	佛坂 早紀	
	再来	黒木 裕介	荒瀬 北斗	木村 駿太	黒木裕介・永江 洋	荒瀬 北斗	
循環器科	第一診察室	小池 明広	小池 明広	小池 明広	小池 明広	山口 統子	
	第二診察室	細谷 まるか	入江 圭	古川 陽介	中村 洋文	藤田 一允	
呼吸器科	新患	中野 貴子	田尾 義昭	高田 昇平	吉見 通洋	山下 崇史	
	再来	田尾 義昭	高田 昇平	吉見 通洋	高田 昇平	田尾 義昭	
		山下 崇史	山下 崇史	中野 貴子	今田 悠介	吉見 通洋	
感染症外来		肥山 和俊			肥山 和俊		
呼吸器外科	諸鹿 俊彦	濱武 大輔	若原 純一	岩中 剛	岡林 寛		
外科	消化器	内山 秀昭	(手術日) ※急患は対応します	辻田 英司	(手術日) ※急患は対応します	内山 秀昭	
		谷口 大介		是久 翔太郎		辻田 英司	
	乳腺	-		石田 真弓		是久 翔太郎	
血管	-	松本 拓也	松本 拓也	富山 貴央	石田 真弓		
整形外科	新患	中家 一寿	福元 真一	(手術日) 外来休診	吉田 裕俊	(手術日) 外来休診	
		松下 昌史	杉田 敏昭		清水 大樹		
	岡本 重敏	吉田 裕俊	久保田 総				
	福元 真一	久保田 総	中家 一寿				
再来	清水 大樹	久保田 総	岡本 重敏	杉田 敏昭	松下 昌史		
再来(午後)							
脳神経外科	新患	保田 宗紀	保田 宗紀	(手術日)	保田 宗紀	吉永 貴哉	
	再来	保田宗紀・吉永貴哉	保田宗紀・吉永貴哉		保田宗紀・吉永貴哉	保田 宗紀	
皮膚科(予約・紹介状をお持ちの方のみ)	一般	中村 美沙	中村 美沙	当番医	中村 美沙	中村 美沙	
	専門(予約)	藤原 夏季	藤原 夏季		藤原 夏季	藤原 夏季	
小児科	午前	一般	中原 和恵	黒川 麻里	中原 和恵	萩尾 泰明	中原 和恵
		専門(予約)	増本 夏子	(山下 文也)	李 守永	山下 文也	西間大祐・萩尾泰明
	午後	一般	李 守永・中原和恵	水野 勇司	李 守永・中原和恵	増本 夏子	李 守永・中原和恵
		専門(予約)	西間 大祐	血液(江口克秀)	循環器(長友雄作)	山下 文也	小児神経(藤井史彦)
		山下 文也	<喘息検査>	腎臓(担当医)(第4以外)		増本・西間・萩尾	
			アレルギー(第2・4)				
放射線科	新患	月～金 渡辺 哲雄(※事前に必ず電話予約が必要です)					
	再来	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	渡辺 哲雄	
歯科口腔外科	新患	吉田 将律	吉田 将律	吉田 将律	吉田 将律	(再来のみ)	
	再来	田尻 祐大	田尻 祐大	田尻 祐大	田尻 祐大		
婦人科	新患	再診のみ	内田 聡子	内田 聡子	(手術日)	内田 聡子	
	再来		田北 美香子	田北 美香子		田北 美香子	

\*小児科の入院依頼や受診相談は、病院代表 092-943-2331 から  
 小児科紹介担当医師(月・萩尾/火・西間/水・山下x/木・李/金・黒川)へ、  
 夜間休日は小児科当直へご連絡ください。

- 物忘れ外来《特殊外来》完全予約制(内科外来 内247)【担当医 田中恵】  
 『金曜日 ①9:00～10:00 ②10:00～11:00』  
 ※予約受付は平日 月～金 13時～16時の間でTEL予約
- 緩和ケア外来 完全予約制(担当看護師 内8184)【担当医】  
 『火曜日・木曜日 午前中』

独立行政法人国立病院機構  
**福岡東医療センター**  
 〒811-3195 福岡県古賀市千鳥1丁目1-1  
 HP <https://fukuokae.hosp.go.jp/>  
 TEL 092-943-2331  
 0120-212-454 (地域医療連携室)  
 FAX 0120-087-437